

陸上運動部部便り

2007年9月号

一橋戦

目次

1	一橋戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	2
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	3
1.5	試合結果	9
2	世界陸上	11
2.1	50km 競歩戦況報告	11
2.2	選手の言葉	11
2.3	レース結果	12
3	自己記録更新者一覧 2007.7.30~9.17	14
4	2006年度部内5傑 2007.9.17. 現在	14
5	主務より	15
5.1	応援OB・OG紹介	15
5.2	行事予定	16
5.3	連絡先(慶弔等)	16

1 一橋戦

1.1 監督の言葉

監督 寺田 秋夫

今年の男子一橋-東大対校兼、女子津田塾-一橋-東大三大学対校陸上は残暑厳しい中、町田市営陸上競技場で一橋大主管で開催されました。シーズン前半は振るわなかった本学ですが、夏を越え、気分も一新して勢いを取り戻したいところです。ここ数年、この試合は日本学生チャンピオンシップと日程が重なり、本学はスーパーエース級は必然的に出せず、また、男子は京大戦の3,4番手選考的な意味合いもあり必ずしもベストメンバーとはいきません。とは言え、選手層の違いから勝って当然の試合ですし、対

校相手にも失礼のないように出た選手にはベストを尽くして欲しい試合です。

さて、昨年は男子トラックは負けてしまいましたし、今年も最初の2種目(100m、1500m)の結果によっては厳しいかと思われたところ、100mは今年急成長だった福田・都井の二人で1,2位獲得とまずは鬼門を突破です。次の1500mは斉藤と院試明けで本調子でない月崎の4年コンビと故障明けでなかなか本調子にならない割沢(5年)の出場。昨年の反省から作戦で上位独占を狙ったところが完全に裏目に出て、あわやスコンク負けの展開となりましたが何とか走力で最後に盛り返して3,4位の4点負けにとどめると、後は全て互角以上の種目ばかりで落ち着いて試合運びができました。4継の2走で足がつってしまうアクシデントで負けてしまったのと、5000mで走路妨害まがいの挑発に乗って体力を消耗してしまい1,4位の同点で終わってしまったこと以外は今の力は出せたと思います。中でも、やり投で普段はあまり対校選手になれない葉梨(3年)が風が難しい条件の中、6投目に46m83で逆転優勝を果たしたのと、110mHで酒谷(1年)が15"92の自己新で関東インカレB標準を突破しての優勝は立派でした。また、上級生の自己記録更新者が多かったのも、シーズン後半に向けて引き締まった良いことだと思います。

女子は、ポイントゲッターの日下(中距離2年)をチャンピオンシップで欠き、苦戦は免れ得ない状況の中、6点制なので出れば1,2点は確保ということで女子主将宮崎(4年跳躍)が1500mに出走し、他校の棄権もあり3点獲得したことが効き、トラック得点で一橋大に1点勝ちの2位獲得。フィールドは4年生ルーキー三谷が砲丸投で7m76、楠木(2年)も自己記録の7m71で1,2位獲得。また、走幅跳でも宮崎が技術的に開眼し4m34の自己新で3位、期待の高山(1年)は3跳目が終わったときの動きのチェック中に靭帯を痛めたようで以降はパスとなるも4m71の2位は確保してフィールド優勝を果たし、総合も2位の健闘でした。

チャンピオンシップの方は、平塚競技場で行われ、石原(4年)が脚が未だ万全でないながら、3000mSCで9'30"34で2年連続入賞の4位、尾崎が走幅跳に出て+4.4の追参ながら7m28で13位、女子800mの日は不調か2'25"79(39位)という結果でした。必ずしも、全日ICレベルの選手が出揃うわけではない試合ですが、日本学生の頂点を目指す銘打つ試合ですので今後とも積極的に選手を出したいものです。

さて、春シーズンは勢いに乗れませんでした。今回を見る限りでは、多くの選手が普段の力は出せるようになって来ましたので、京大戦では昨年以上に、勝ち負けではなく、良くやったという試合をすべく、あと4週、しっかりと作って行きたいと思います。女子は、高山の脚が心配ですが、ベストメンバーを組めれば、格上の相手ですがリレー勝負には持ち込めると思います。

変わらぬご支援・ご声援をお願い申し上げます。

1.2 主将の言葉

主将 倉員 智瑛

ようやく待ち望んでいた勝ちを得ることができました。もちろん、負けるはずの相手ではないので手放して喜ぶわけにはいきません。それでも勝って最後の京大戦に臨めるのは、今までとは違う流れを作ることができたということになります。また、主力選手を使い切らずに試運転するような形で臨んだ布陣で一定の成果を残せたのも評価できると思います。リレーを除く10種目のうち5種目で3年生以下が優勝する活躍を見せてくれました。ここに背水の陣を敷く4年生が加われば、一ヵ月後、駒場グラウンドで有終の美を飾れることを信じて止みません。今シーズンも残り僅かとなりましたが、諸先輩方におかれましては最後まで変わらぬ暖かいご声援をなにとぞよろしくお願いいたします。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 宮崎 彩

今年の三大学対校戦も京大戦を見据えた試合形式でのぞみました。それぞれ多種目に出場しながら体を酷使した試合になりましたが、素晴らしい結果を出しました。今年も津田塾大学には僅差で負けてしまいましたが、フィールド優勝やトラックでも1位とあまり変わらない点数差での2位という好成績で

した。今回はチャンピオンシップに出場した中距離エースの2年日下がいない中で、新しい種目にチャレンジする試合となりました。しかし、一人一人の努力が点数を稼ぎ、全員が貢献した試合です。

今回の試合では自己ベストを更新して入賞する選手が多く、夏からの練習が結実した大会でした。砲丸での1、2フィニッシュでは、4年の三谷と2年の楠木が自己ベストで3位の選手を大きく引き離して勝利しました。また、2年の清水と大久保はいつもの100mだけでなく400m、4年の宮崎も1500mに出場するという新たな試みでした。1年の高山は走幅跳の途中で怪我をし3回しか試技をすることができませんでした。2位を取得し、チームに貢献しました。急遽リレーメンバーを変更することになりましたが、バトンパスがスムーズに行き2位に着けたのはずっと見ていただいていたD2の堀越さんのサポートがあったからだと思います。思いもよらないトラブルが続出する中で結果を出せたのはチームが一丸となって試合に向かったからです。

今年の京大戦では、去年と同じように苦しい試合を強いられると思います。しかし、今回一人一人が発見したそれぞれのポテンシャルを磨き、夏の間の練習成果を活かして試合にのぞむ所存です。この一つにまとまったチームで今秋シーズン最後の大きな大会での勝利を目指します。ご声援よろしくよろしくお願いいたします。

1.4 試合経過

トラック

10:00 男子 100m 決勝

2レーンに都井(2年)、4レーンに福田(3年)、6レーンに中嶋(2年)の出場。本対校戦での大事なオープニングレース。是非ともスコク勝ちしてチームに勢いをつけたいところである。3番手である中嶋が、申告記録で上回る一橋大のラッシュ、鈴木を相手にどこまで粘れるかが鍵となる。

まず、今季好調の都井が号砲に好反応を見せる。20m付近まで一気に飛び出し、レース前半の主導権を握る。申告記録トップの福田はスタートこそやや控えめであったが、30m付近からは持ち前の伸びを発揮し、都井を追走。40m過ぎから優勝争いはこの二人にほぼ絞られる。一方の中嶋はスタートで出遅れる苦しい展開だが、諦めず集団に食らいつく。60mを過ぎると、福田が頭ひとつ抜け出て、そのまま11"32の1位でゴール。都井もこれに続き11"36の2位でゴールした。中嶋は最後まで粘りの走りを見せるが、序盤の遅れを取り戻す事ができず11"79の6位でゴール。この時風は-0.6mであった。

対校得点は東大の4点勝ちとなったが、先の京大戦を見据えると決して安心できる内容とは言えない。今後更なる奮起が望まれるところだ。

10:30 女子 100m 決勝

3レーンに清水(2年)、6レーンに大久保(2年)の出場。清水は申告記録上はトップだが、津田塾大の山本・杉江との差は僅差であり、予断は許されない。大久保はこの3強に何とか食い込みたい。女子チームはエース・日下を欠く中、全員が他種目出場の総力戦で臨む。是非とも女子最初の種目となるこのレースで点数を稼いで、後々の得点争いを楽にしたいところ。

号砲が鳴る。清水はまずまずの反応をみせるが、身上の加速が思うようにゆかず、アウトレーンの山本に先行され、インレーンの杉江とも競り合う苦しい展開となる。巻き返したいところだが、中盤以降は清水

らしくない硬さが出てしまい、伸びが足りず、13"67の3位でゴールした。一方の大久保はスタートでやや出遅れたものの、諦めず中盤では著しい伸びを見せ、激しい4位争いを演じる。しかしながら後半ではやや失速し、13"95の5位でゴールした。この時風は-0.3mであった。

いわゆる「額面通り」の走りをする難しさを思い知らされたレースであった。京大戦にむけて、それぞれが万全の状態を作り上げる事が、至上命題となるだろう。

10:40 男子 1500m 決勝

割沢(5年)、斎藤(4年)、月崎(4年)の出場。持ちタイムでは一橋大の一番手にはややかなわないが、2番手、3番手と比べれば本学の選手の実力は遥かに勝っており、箱根予選会を控えた斎藤のスピードに少し不安があるものの、表彰台の独占も十分期待でき、まさか負け越すことはないだろうと思われた。

スタート直後から集団から一人、月崎が抜けだし、400mを64"で通過する。しかし2周目でペースダウンしてしまい、800mを前にして集団に吸収されてしまう。このときの800mの通過は2'12"であった。その後は月崎と第二集団を引っ張っていた割沢が並んでペースを作る。昨年、一橋勢の残り400mからのスパートに屈しスコク負けを喫したときと同じようなレース展開になってしまう。このままではまずいと感じたのか、割沢がラスト一周の鐘が鳴ったところでペースを上げる。若干前に出て3'19"で1200mを通過した。ここで一橋勢は一気にペースアップし、集団がばらける。これにうまく反応したのが集団内で待機していた斎藤であった。残り200mで2番手にあがり、そのままの勢いで優勝するかと思われたが、最後の直線で伸びを欠き逆に一橋大の選手に抜き返されてしまった。結局3人とモラストが伸びず、斎藤が4'07"99で3位、月崎が4'09"75で4位、割沢が4'12"25で6位であった。

本学にとっては不本意な結果となった一方で、2位に入った一橋大の選手はベスト記録を大幅に更新しており、この試合に対

する意識の差が明確に表れたようだ。この結果本学は一橋に4点負けとなった。

11:00 女子 1500m 決勝

宮崎(4年)の出場。今回、唯一の女子中長距離選手である日下(2年)がチャンピオンシップに出場し不在のため、本学からは出場者を出せないかと思われた。しかし、点数を稼ぐために走幅跳の選手ではあるものの宮崎が出場した。

スタート後オープンの選手が飛び出す、力の差があり対校選手は誰もついていけない。宮崎は2番手につける。しかし、200mを通過すると後ろから来た一橋大と津田塾大の選手に抜かれ4番手に落ちてしまう。前の選手もかなりのスローペースで、中距離選手の視点から見ればついていくことはそれほどつらくはないように思えるのだが、本職が走幅跳の宮崎にこの距離はかなり苦しいのであろう。前との差は徐々に開いていった。

最終的には前とかなり離されはしたものの、7'24"88の4位でなんとか走りきった。この結果、本学は3点を獲得した。結局は宮崎の出場が功を奏し、トラック得点において一橋大に1点差で勝つことができた。

11:20 男子 110mH 決勝

2レーンに江間(1年)、4レーンに酒谷(1年)、6レーンに武安(3年)の出場。今回のレースは一橋大の選手が2人棄権したため、東大3人、一橋大1人という本学にとって圧倒的有利な状況の中で行われ、スコンク勝ちも期待された。

号砲と同時に武安が一歩リードし、長身を生かした豪快なハードリングでトップを疾走する。酒谷はスタートで出遅れるものの、持ち味のハードリングで徐々に先行する武安を追いつめ、50m付近でとらえる。最後までハードリングは乱れず、そのまま15"92の1位でゴール。武安がそれに続き16"20で2位となる。江間は、スタートから着実なハードリングを見せて途中までは一橋大の選手をリードするものの、7台目で大きくひっかけてしまい、走りが乱れてしまう。持ち直すことはできず、そのまま17"97の4位でゴール。このときの風は-0.9mで

あった。

結果、東大は8点を獲得し、最低限の責任は果たしたといえる。このレースでは、向かい風の中酒谷、武安が自己ベスト、江間が大学ベストを出すことができ、酒谷は関東インカレのB標準も突破した。残る京大戦に向けては、エースの尾崎以外の2人の走りが重要になってくるだろう。

11:40 男子 400m 決勝

2レーンに小澤(4年)、4レーンに兵頭(1年)、6レーンに梶岡(3年)の出場。今期50秒台を出している深澤(3年)が足の不調により欠場したためスコンク勝ちが難しくなった中、何とか勝ち越したいところであった。

スタートから梶岡は積極的な走りを見せ、一人抜け出した状態となる。小澤は前半出遅れ、取り残されるも何とか必死に食らいついていった。動きがでたのは200mを通過した付近から。兵頭は他の選手が次々と失速する中で驚異の追い上げを見せ、一気に首位に躍り出た。そのままペースを落とすことなく49"66の1位でゴール。梶岡は前半リードするも後半、失速。一橋大のラッシュ、服部に抜かれ51"15の4位でのゴールであった。小澤は遅れていたもののラスト100m、必死の粘りの走りで一橋大の鈴木を抜くことができ5位の51"24の5位でゴールした。

勝ち越しはなかったものの実りのある試合ではなかっただろうか。兵頭は安定してタイムを出せることを証明し、その存在感を示した。梶岡は春以来の好タイムであり課題が残るものの京大戦への良いステップとなった。小澤は今回の試合で自己ベストを更新した。ラストの追い抜きなど最終学年としての勝負強さを発揮したと言えるだろう。

12:00 女子 400m 決勝

3レーンに清水(2年)、6レーンに大久保(2年)の出場。二人とも100mが専門で400mは初出場。実力は未知数だが得点獲得に期待したいところである。

清水はスタートから飛び出した。スピードを生かし一気にトップに躍り出る。パッ

クストレートに入りその後も他の選手と差を広げていく。しかし、清水は第2コーナー入り口で大幅に失速しすぐに周りに詰められる。2レーンの津田塾大の杉江に抜かれ、ホームストレートでも一橋大の場に抜かれ結局64'45の3位でゴールとなった。対照的に大久保はスタートから走りに切れが出ず、周囲からずると引き離されていく。最後まで根気の走りをするもそのまま順位を上げることができず68'99の6位であった。

得点獲得も叶い、ともに初出場ながら健闘したと言える。しかし、結果は選手層の薄さを示すこととなり京大戦に向けて一層の努力が期待されるだろう。

13:40 男子4×100mR 決勝

3レーンに、中嶋(2年)-福田(3年)-都井(2年)-兵頭(1年)の走順で出場。来年を見据え、2,3年生の主力選手に加え、1年生や対校選手としての経験の浅い選手でリレーのメンバーを組んだ。

1走中嶋は得意のスタートダッシュを見せるが、4レーン一橋大の1走荒瀬の好走がそのスピードを上回り、徐々に離されていく。午前の疲れが残っていたのか、2走福田とのバトンパスで2人の差はなかなか縮まらず、福田は上手くスピードに乗れないままバトンを受けた。男子100mで優勝した福田、ここで一気にレース展開を変えたいところだったが、脚がつるといふハプニングが発生。一橋大の2走ラッシュにさらに差を広げられてしまう。3走の都井は、フラットレースで怪我を負ってしまっていたが、その痛みを感じさせない力走を見せる。一橋大の3走鈴木を懸命に追った。4走兵頭にバトンが渡ったとき、一橋大の4走岡本との差は既に30mほどにまでなっていたが、兵頭の快走により、どんどんその差を縮めていく。しかし、100mという短い距離でその差を埋めることは困難であった。順位は変わらず、45'10の2位でフィニッシュ。東大は2点を獲得、一橋大に4点を与えてしまった。

実力的には十分勝てるレースであったが、残念な結果に終わった。しかし、得た物も多いレースであった。この日の反省を京大戦

や来年に活かし、万全の準備を整えていてほしい。

14:50 男子5000m 決勝

松本(4年)、山田(2年)、竹俣(1年)の出場。エースの松本はこの種目、2連覇と自身が3年前に打ち立てた大会記録である14'58"5の更新の期待がかかったレース。山田、竹俣は共に対校選手としては2度目のレースで経験は浅いが、5000mでは山田が15'12"、竹俣が15'20"の自己記録を持つ。今季パート内ではそれぞれ5番目、4番目で、先日の21kmタイムトライアルでも好走し、箱根予選会の選手内定を決めており、勢いがある。

台風一過で30を超え好天の下、レースはスタート。松本はスタートから他の選手を大きく引き離す独走態勢。山田、竹俣は落ち着いた走りで一橋大の3選手と集団を形成。松本は最初の1000mを2'59"で入ると、そのまま1000mのラップが3分前後の快走。最後の1000mを2'55"でまとめ、終わってみれば、2位に50秒以上の大差をつける14'55"76の1位でゴール。最後の1走を自身で走り終った。一方、山田、竹俣は交互に集団を引っ張り、1000mを3'13"、2000mを6'24"で順調に通過。しかし、相手の術中にはまる形でペースを崩され、3000m手前からの一橋大の江島のペースアップに山田、竹俣共に対応できず、その後、一橋大の森田にも離されてしまう。竹俣はラスト1000mを3'03"で森田を猛追するも、一步及ばず、15'51"77の4位。山田は持ち前の粘りの走りができず、15'57"78の5位に終わった。

対校では、松本が圧勝したものの、得点の上では一橋と同点に終わり、箱根予選会に不安を残す結果となった。この試合を反省材料として、今後の奮起が望まれる。

15:40 女子4×100mR 決勝

4レーンに楠木(2年)-清水(2年)-宮崎(4年)-大久保(2年)の走順で出場。ベストを出せば優勝も期待されるレースだったがリレーの前に行われた走幅跳で4走で出場予定だった高山が肉離れを起こし、代わりに体調の優れない大久保を起用するやや不

安なレースとなってしまった。

1 走楠木はまずまずのスタートを見せ、外を行く一橋大にはやや離されるものの内側の津田塾大とはほぼ互角の走りで2 走清水へとバトンをつなぐ。清水は個人で100mと400mを走った疲れもあり、序盤で津田塾に追い抜かれる苦しい展開となる。3 走宮崎はコーナーをスムーズに走り、前を行く2校に離されず必死に追いつく。4 走へのバトンパスの際にリードしていた外側の一橋大がバトンミスで大きく減速し、その間に4 走大久保が逆転する。津田塾には届かなかったものの、大久保は懸命の走りで一橋大を振りきり、54⁷98の2位でゴール。

予定していたメンバーでなくとももしっかりバトンをつなげるなど、確実に選手層も厚くなり、実力もついてきているため、次の京大戦ではベストの更新と勝利を期待したい。

16:00 男子4 × 400mR 決勝

4レーンに今村(4年)-梶岡(3年)-小澤(4年)-兵頭(1年)の走順で出場。今村は100mOP・400mOP、梶岡は400m、小澤は400m・800mOP、兵頭は100mOP・400m・4 × 100mRに既に出場していて、体力面では若干不安視される。当初考えていたよりも一橋大の400m系勢が力を見せていたので勝ちに徹したいところ。これからの関東新人・京大戦へつなげるためにもしっかりしたレースを展開し今日の勝ちに花を添えたいところだった。

1 走の今村は100mOP・400mOPの疲れもあってかスタートダッシュで相手を離せない。300mを過ぎても接戦の苦しい展開。ラスト100mで粘りを見せ僅差をつけ2 走の梶岡へ。梶岡は第一曲走路出口から一橋大をおさえレースを展開していく。しかし、思うように差は広がらず2m程の差で3 走の小澤へバトンをつなぐ。小澤は100m過ぎあたりで一橋大に追いつかれてしまう。しかし、並ばれた後すぐに相手を離し粘り強さを見せ、結局2,3m差でアンカー兵頭へ。炎天下での多種目出場でスタミナが心配されていた兵頭だが、落ち着いた走りで300mまでは差はほぼ変わらず。しかし、400m優勝

者の底力を発揮しラスト100mで一橋大を圧倒し、最後は10m程の差をつけ3²⁵06の1位でゴール。

勝利はしたもののタイムは決して良いとは言えない。各人がある程度疲労がたまっていたとしてもこれ以上の結果を出さねば関東新人・京大は苦しい戦いを強いられることになるだろう。しかし、各人の能力は着実に力をつけてきているので今後十分にタイムが伸びる余地がある。これからのマイルチームに大きな期待を寄せたい。

フィールド

10:00 男子円盤投 決勝

庄司(4年)、小林(4年)、谷(2年)の出場。天候は快晴・高温というまさに台風一過という気候の中試合は始まった。おおよそ1ヶ月後に迫った京大戦に向け、調子を上げていきたい一戦であった。

夏季休暇や世界陸上等で練習不足が懸念される中、4年生2人は自己ベストには及ばないものの、前半戦においては小林が29m74で暫定1位、庄司が29m39で同2位、と安定した記録を出す。一方の谷は経験の浅さからか安定性を欠き、何とか27m49の同4位で後半戦の試技を迎えた。しかしその後は3人とも記録を伸ばせず、迎えた最終投擲でこれまで3位であった一橋大の選手が執念の30m12で一気にトップに立った。なんとしても1位を譲りたくない場面での庄司の気合のこもった一投、一瞬30mラインを超えたかのように見えた。しかし、わずかに右方向へのファールとなり、残る小林の一投も残念ながら30mを超えることは出来なかった。

今回は30m台が一人と、試合のレベルとしては決して高くはなく、スコンクの可能性もあった試合であったが、最終投擲での逆転を許してしまい、ここぞという時の勝負弱さを露呈する結果に終わった。1ヵ月後の京大戦では粘り強い投擲が期待される。

11:20 男子砲丸投 決勝

小林(4年)、北川(3年)、寺島(2年)の出場。気温が高く絶好のコンディションで競技が開始された。

寺島は1投目から8m30の自己ベストを出し、それから徐々に記録を伸ばして5投目に9m02を投げたが、一橋大の1番手には届かず4位となった。北川は1投目、2投目とファールしてしまう。3投目で記録を残し、その後思い切った投擲を行うが、リズムが崩れたためにあまり記録は伸びず5投目の10m48で2位となった。小林は1投目に10m53を投げてトップに立つとその後もベテランらしい安定した投擲を見せ、2投目の10m70の記録で1位となり、見事に一橋戦三連覇を達成した。

スコンクできなかったことは残念であったが、京大戦に向けての良いステップとなる試合であった。

11:20 女子砲丸投 決勝

三谷(4年)、楠木(2年)の出場。三谷は7月に入部したばかりだが中高で陸上の経験があり、好記録が期待された。楠木も夏季練習で七大戦の自己ベストを上回る記録を連発しており、優勝を狙ってこの試合に臨んだ。

三谷は1投目から徐々に記録を伸ばし、3投目で7m76を記録しトップに浮上した。楠木は1投目で自己ベストの7m71を記録し、2投目終了時点までその記録でトップであったが、3投目で確実に伸ばしてきた三谷に逆転された。後半3投は両者とも記録は振るわず、結局三谷が7m76で1位、楠木が7m71で2位であった。三谷は大学初の試合で優勝という快挙を成し遂げた。楠木は5cm差で惜しくも優勝を逃したが、この種目で東大が1、2位を独占し、女子フィールド優勝に大きく貢献した。

好結果は残したものの、両者とも練習投擲では好調であったのに、後半3投で急に勢いを失ったりと調整力の欠如も浮き彫りになった。1ヶ月後の京大戦ではより手強い相手と争うことになるが、2人で切磋琢磨して弱点を克服し、京大も抑えこんでほしい。

13:00 男子走幅跳 決勝

西田(1年)、廣瀬(2年)、武安(3年)の出場。一橋大の選手は1人しか出場しなかったため、大きく点差を広げることができる

種目であった。前日と前々日に台風が関東に上陸し、暴風雨に見舞われたため、選手の調整具合が注目された。

天候は晴れ。風向きは向かい風になったり追い風になったりとめまぐるしく変わった。廣瀬は踏み切り足のハムストリングスに軽い肉離れを起こしていたということもあり、記録5m90で辛くも3位に滑り込んだ。西田は対校選手として初の出場。安定して6m30台の記録を連発し、6跳目の6m37で2位となった。しかし、1跳目では惜しくもファールながら、6m50付近に着地する跳躍を見せ、将来性を感じさせた。武安は1跳目で6m83を記録し、優勝を飾った。同日に110mHと三段跳に出場した疲れもあり、5、6跳目をパスしたが、貫禄の勝利であった。

結果、走幅跳ではこの大会唯一のスコンク勝ちを収め、東大の対校戦勝利に大きく貢献した。

13:00 女子走幅跳 決勝

宮崎(4年)、高山(1年)の出場。

暑く日差しが照りつける中、幅跳びの試技が始まった。1年の高山は最初から4m50近くを跳ぶが、いつもよりも緊張した様子。本来の実力では5mを超えることができるが、今回はいつもの切れ味が見えなかった。しかし、3跳目で4m71を跳び1位に10cmほどの差で迫る。しかし、体を温めている間に肉離れを起こし、途中棄権した。宮崎は練習の成果が見られた。1跳目から自己ベストの4m09に近い4m07を出し、その後もぐんぐん距離を伸ばし、3跳目の4m34を最長記録として試技を終えた。

高山は怪我をしながらも2位、宮崎は3位とそれぞれ点数を稼ぎ、フィールド優勝に貢献した。

13:30 男子やり投 決勝

葉梨(3年)、大谷(3年)、千葉(1年)の出場。午後から方向の定まらない強い風が吹き始め、槍のコントロールが鍵となった。

葉梨は約2週間前に自己ベストを更新したばかりで、その勢いのまま1投目からトップに立つ。しかし、その後は記録を伸ばせず、3番手につけていた一橋大の高松に6

投目に逆転を許してしまう。追い詰められた最終投擲者、葉梨の6投目。槍投げパート・応援席からの手拍子が沸き起こる中、気合のこもった槍は勢いよく飛び、46m83で見事劇的な逆転優勝を飾った。大谷は棒高跳を専門種目としているが、1週間前には槍投げ初試合で41m台を記録しており上位入賞が期待された。1投目に40m28とまずまずの記録を残す。しかし、強風からか槍が思うように飛ばず、また、経験不足から助走も上手く合わない。結局記録を伸ばせず6位で競技を終えた。千葉は1投目に43m台の記録で2番手につけるも2投目には服部、3投目には高松といずれも一橋大の選手に逆転を許し4番手で折り返す。4投目に自己ベストとなる45m12で一時3番手に上がるものの、高松に5投目であっさり逆転され、4位で競技を終えた。

大谷は槍を諦めるつもりなど全くなく、逆に雪辱に燃えているので、早く全助走での投げを完成させ、好記録を残せるよう期待したい。千葉は2位、3位とは1m前後の差であり、勝負弱さを示したが、ひざの痛みを抱える中での試合であったため、万全な状態での今後に期待したい。

14:50 男子走高跳 決勝

持永(5年)、倉員(4年)、小福田(3年)の出場。持永は足に不安を抱え、小福田は怪我が治って初めての試合という逆境の中臨んだ試合であった。風も強く、コンディションは非常に悪かった。

全員1m70から試技を開始した。この高さを持永、倉員は一跳目で成功させる。小福田は1跳目にバーに足を当ててしまうが、2跳目で難なく成功させた。続く1m75の高さを持永はパスし、1m80の跳躍に挑む。倉員はこの1m75を余裕を持って成功させる。小福田は普段なら十分跳べる高さであったが、3跳とも高さが出ず失敗した。続く1m80の試技において、持永は1跳目を失敗したところでこの高さを通す。倉員は2跳目に高さのある跳躍をしたものの、足をバーに当ててしまい、結局3跳とも失敗してしまう。続く1m85の試技で、持永は1跳目高さは十分な跳躍を見せたが、足

が当たりバーを落としてしまう。2跳目も失敗してしまい、試技を終了した。

一橋大の前年優勝選手が記録なしに終わったこともあり、倉員2位(1m75)、持永3位(1m70)、小福田4位(1m70)と勝ち越すことに成功した。次の京大戦に向けて、非常に期待の持てる結果となった。

1.5 試合結果

第49回東京大学・一橋大学対校陸上競技大会
第4回東京三大学女子対校陸上競技大会

於 町田市立陸上競技場 (H19.9.8)

男子 100m 決勝 (-0.6)

1	<u>福田篤</u>	東京大	11.32
2	<u>都井紘</u>	東京大	11.36
3	<u>ラッシュ恵</u>	一橋大	11.49
4	<u>荒瀬仁志</u>	一橋大	11.52
5	<u>岡本弦一郎</u>	一橋大	11.68
6	<u>中嶋毅彰</u>	東京大	11.79

男子 400m 決勝

1	<u>兵頭直弥</u>	東京大	49.66
2	<u>ラッシュ恵</u>	一橋大	50.57
3	<u>服部康平</u>	一橋大	50.91
4	<u>梶岡利之</u>	東京大	51.15
5	<u>小澤聡</u>	東京大	51.24
6	<u>鈴木楓太</u>	一橋大	52.16

男子 1500m 決勝

1	<u>斉藤拓</u>	一橋大	4.06.50
2	<u>石川宗史</u>	一橋大	4.07.27
3	<u>斉藤俊</u>	東京大	4.07.99
4	<u>月崎竜童</u>	東京大	4.09.75
5	<u>石橋俊輝</u>	一橋大	4.10.49
6	<u>割沢高行</u>	東京大	4.12.25

男子 5000m 決勝

1	<u>松本翔</u>	東京大	14.55.76(NGR)
2	<u>江島平祐</u>	一橋大	15.41.45
3	<u>森田祐雄</u>	一橋大	15.48.78
4	<u>竹俣直道</u>	東京大	15.51.77
5	<u>山田健太郎</u>	東京大	15.57.78
6	<u>大垣秀介</u>	一橋大	16.50.92

男子 110mH 決勝 (-0.9)

1	<u>酒谷彰一</u>	東京大	15.92
2	<u>武安光太郎</u>	東京大	16.20
3	<u>金久保欣之</u>	一橋大	17.72
4	<u>江間輝裕</u>	東京大	17.97

- 荒瀬仁志 一橋大 DNS
- 石川順章 一橋大 DNS

男子 4 × 100mR 決勝

1	<u>一橋大</u>	44.05
2	<u>東京大</u>	45.10

(中嶋-福田-都井-兵頭)

男子 4 × 400mR 決勝

1	<u>東京大</u>	3.25.06
2	<u>一橋大</u>	3.26.43

(今村-梶岡-小澤-兵頭)

男子走幅跳決勝

1	<u>武安光太郎</u>	東京大	6m83
2	<u>西田昂広</u>	東京大	6m37
3	<u>廣瀬彬</u>	東京大	5m90
4	<u>小澤順</u>	一橋大	5m72
-	<u>村木啓一</u>	一橋大	DNS
-	<u>石川順章</u>	一橋大	DNS

男子走高跳決勝

1	<u>平山晃一</u>	一橋大	1m80
2	<u>倉員智瑛</u>	東京大	1m75
3	<u>持永新</u>	東京大	1m70
4	<u>小福田大輔</u>	東京大	1m70
5	<u>石川宗史</u>	一橋大	1m65
-	<u>石川順章</u>	一橋大	NM

男子砲丸投決勝

1	<u>小林宗隆</u>	東京大	10m70
2	<u>北川昂広</u>	東京大	10m48
3	<u>石川順章</u>	一橋大	9m46
4	<u>寺島孝明</u>	東京大	9m02
5	<u>高松祐輝</u>	一橋大	8m16
6	<u>羽鳥正靖</u>	一橋大	7m07

男子円盤投決勝

1	<u>武川晋也</u>	一橋大	30m13
2	<u>小林宗隆</u>	東京大	29m74
3	<u>庄司宇</u>	東京大	29m39
4	<u>谷彰一郎</u>	東京大	27m49
5	<u>高松祐輝</u>	一橋大	24m21

6 羽鳥正靖 一橋大 21m28

男子やり投決勝

1	葉梨輝	東京大	46m83
2	高松祐輝	一橋大	46m57
3	服部康平	一橋大	45m87
4	千葉伸宏	東京大	45m12
5	石川順章	一橋大	42m62
6	大谷真人	東京大	40m28

男子トラック順位

1	東京大	34
2	一橋大	28

男子フィールド順位

1	東京大	34
2	一橋大	16

男子総合順位

1	東京大	68
2	一橋大	44

女子 100m 決勝 (-0.3)

1	山本彩花	津田塾	13.25
2	杉江祐里	津田塾	13.51
3	清水蘭	東京大	13.67
4	揚玲美	一橋大	13.85
5	大久保渥子	東京大	13.91
6	池ヶ谷真希	一橋大	14.50

女子 400m 決勝

1	杉江祐里	津田塾	62.11
2	揚玲美	一橋大	63.63
3	清水蘭	東京大	64.45
4	村上真望	津田塾	66.10
5	阿蘇品咲	一橋大	67.63
6	大久保渥子	東京大	68.99

女子 1500m 決勝

1	村上真望	津田塾	5.56.15
2	大塚理絵	津田塾	6.13.99
3	金城美江	一橋大	6.38.13
4	宮崎彩	東京大	7.24.88

- 大久保渥子 東京大 DNS

- 奥田麗子 一橋大 DNS

女子 4 × 100mR 決勝

1	津田塾	52.87
2	東京大	54.98
(楠木-清水-宮崎-大久保)		
3	一橋大	57.64

女子走幅跳決勝

1	山本彩花	津田塾	4m87
2	高山花子	東京大	4m71
3	宮崎彩	東京大	4m34
4	揚玲美	一橋大	4m28
5	池ヶ谷真希	一橋大	4m21
6	坂田佳奈美	津田塾	3m83

女子砲丸投決勝

1	三谷由樹	東京大	7m76
2	楠木千尋	東京大	7m71
3	池ヶ谷真希	一橋大	7m05
4	岡田政子	津田塾	6m56
5	小野寺みずほ	津田塾	6m43
6	金城美江	一橋大	6m32

女子トラック順位

1	津田塾	37
2	東京大	18
3	一橋大	17

女子フィールド順位

1	東京大	20
2	津田塾	12
3	一橋大	10

女子総合順位

1	津田塾	49
2	東京大	38
3	一橋大	27

2 世界陸上

2.1 50km 競歩戦況報告

監督 寺田 秋夫

日本は開催国ながら全体的にエースが不振で、盛り上がり欠け中、8日目(9/1)の50kmWに'99卒OBの明石君(総合警備保障)の登場となりました。明石君は日本チームの2番手、持ち記録的には30番前後ですが、前回ヘルシンキ大会では15位でしたので、今回はそれ以上を目指し、あわよくば日本人トップで北京を内定したいというのが目標だったと思います。

この種目の日本1番手の山崎選手は世界陸連の競歩ランク23位で、50km選手としては11番、前回ヘルシンキ大会7位ですので、開催国のメリットを考えれば当然メダル候補で、そんな中で明石が日本人1位になれば非常に意義のあることです。ところが、明石としては練習の流れが思うように行かなかったようで、前回以上の結果を出したい思いと、どういうレースができるか不安な思いとでスタートしたようです。

さて、思いの外快適なコンディションの中、朝7時にスタートです。世界大会の常で一塊の大集団の1000mの通過が5分前後の遅いスタートとなりましたが、競技場を出て2kmの周回コースに出る頃には中国の選手が世界記録ペースで引っ張り、大きく3つの集団にばらけ、明石君は持ち記録では格上の選手で形成された30位前後の大集団に入り、まずまずのリラックスした動きで引っ張られながらペースを上げていきます。(今大会は運営上の問題が山積でしたが、ロード種目ではエントリータイム順でナンバーカードが振られたのは観戦側には良い試みだったと思います) そのまま、20km過ぎまでは23'40"/5kmを切る安定したペース(自己記録相当)で快調に行き、次々に前から落ちる選手を食っていき、数名の失格も手伝い17-21位集団で順位を上げていくものの、21km過ぎに集団の中では実績の頭抜けた選手がペースを上げると他の選手も一斉にペースを上げ、やや離されてしまいます。それでも自分のペースを守り、後続に追いつかれることもなく27kmまでは踏ん張りますが、ここで上体が力んでしまいペースが落ちてしまいます。

しかし、上手い具合に周回差の先頭集団が追いつき始め、暑さの中、驚異的なペースアップにまでならないトップ選手をうまく使いながら、リズムを持

ち直して行き、35km過ぎには一時は先頭争いをしてきた山崎君に周回差ながら追いつき、叱咤する余裕もできます。

この時点で、日なたの気温は32度くらいになったようで、スピードタイプの選手は全くリズムが崩れてしまい、フォームとナンバーカードを見ただけでは周回遅れなのか同じ周回なのかわからない状況となり、応援側も正確に明石君に順位を伝えられなくなりましたが、それでも10位以降の選手はペースダウンも激しく、もう一度9'30/周(23'30/5km)に上げられれば、上位選手の警告数もあり下位入賞も夢ではない状況となります。

しかし、ここからが流石に厳しく、力みは取れたもののペースを上げるまでには行かず、時折周回差の選手を抜いていく程度で順位を上げられません。それでも、40kmからの5kmも25分を切ってカバーし、堂々の16位(4°02'31")を獲得です。この体力的にもつらい中、警告を1つも受けなかったことも大収穫です。今回は北京のA標準(4°00'00")は切れませんでした。経緯は複雑ながら、日本人1位は獲得し、また、既に有効期間内にA標準は切っていますので、北京にも大きく近づいたと思います。あとは来年の日本選手権で再度実力を出すだけです。

本人は、山崎君の誤誘導による棄権の件は気になったようで、前回比で1つ下げて山崎にアクシデントがなければ実力的にbest16もれということが残念な様子でした。が、残酷なもので、こういう「タラレバ」ではなく残った結果だけで評価されるのが競技人生です。明石は今回の世界で16番というのが結果で、これは胸を張って誇りにして欲しいと思いますし、そのタラレバですが、スタートラインに立つまでの練習を考えれば本当に良くやったと思います。

当日は若手のOBや二水会の皆さんの応援も頂き、本人も大いに励みになったようです。地味な種目でも良いので、常に東大関係者が世界を狙い続けられればと思います。

2.2 選手の言葉

平成11年卒 明石 顕

世界陸上も終わり、10日が過ぎました。極めて冷静に臨み、レースをしたつもりでしたが、それでも感じてたであろう興奮や緊張もようやく冷め始め、レース直後には感じなかった疲労感に包まれ始めました。

2年前、ドタバタと半ばわけのわからぬまま臨み、

かえってそれがいい方向に出たヘルシンキ大会とは逆に、今回は早くから大阪に出ること、大阪で勝負することを意識して練習をしてきました。ただそれが、練習の質や量を追い求めすぎて空回りしたり、普段はしない故障につながったりした面は否めません。満足な練習をして、満足な状態でスタートラインに立てなかったのは残念です。しかし、トップアスリートでも、最高の状態で試合に出て最高の結果を残すなんて10年にせいぜい2,3度、大切なのはそうでない状況のときに、あらゆる事を言い訳にせず自分で受け止め、その状態で最良の結果を残すこと、それが選手たるものの持つべき姿勢だと思っているので、そういう意味では今回の試合は、満足は行かないけれども出来ることはしたと納得のいくものでした。

大阪でレースがしたいという思いで過ごした日々、そのために変えてきたもの。その中で今回は裏目に出てしまったものがあったことは確かです。しかし、同じ練習を何年も繰り返していてもさして強くはなりません。自分がどういう練習によって少なくともここまで強く成れたのかを考えずに練習パターンを完全に変えてしまうのは愚かですが、少しずつ、マイナーチェンジはしていかなないと成長し続けることはありません。それは練習の組み立て方には限らず、競技への姿勢や、練習中の意識の持ち方等も含まれます。

来年は北京五輪です。3年前には届かなかった舞台。よく心技体と言われますが、大きな試合に出るためには、それだけでなく、時の流れのようなものを引き寄せなければなりません。3年前に足りなかったもの、この3年間に身につけたもの、逆に失ったもの、変わらぬ自分の強み、そして弱み。そういう一つ一つのものは、バラバラに見えて別々に身につけたり失ったりすることもあります。ひと時にすべてを手にしたたり、離してしまったりすることもあります。あと半年で何をどう変えられるか、もう一度考えていきたいと思います。

最後に、応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。沿道を埋め尽くす観客、絶え間ない日本語の声援、自分の名前を叫び続ける懐かしい声、そんな空間を歩き続けられた4時間は自分にとってとっても幸せな時間でした。選手としては一生に一度の国内での世界陸上、本当に選手冥利に尽きる試合でした。



2.3 レース結果

Position	Bib	Athlete	Country	Mark
1	201	Nathan Deakes	AUS	3:43:53
2	107	Yohan Diniz	FRA	3:44:22
3	128	Alex Schwazer	ITA	3:44:38
4	205	Denis Nizhegorodov	RUS	3:46:57
5	112	Erik Tysse	NOR	3:51:52
6	212	Mikel Odriozola	ESP	3:55:19
7	220	Chao Sun	CHN	3:55:43
8	207	Trond Nymark	NOR	3:57:22
9	218	Horacio Nava	MEX	3:58:17
10	243	Jarkko Kinnunen	FIN	3:58:22
11	247	Antti Kempas	FIN	3:59:34
12	232	Donatas Škarnulis	LTU	3:59:48
13	224	Eddy Riva	FRA	4:00:44
14	225	David Boulanger	FRA	4:01:30
15	227	António Pereira	POR	4:02:09
16	240	<u>Ken Akashi</u>	JPN	4:02:31
(24'43" - 48'19" - 1°41'56" - 1°35'33" - 1°59'26" - 2°24'09" - 2°48'50" - 3°13'19" - 3°38'05" - 4°02'31")				
17	238	Yusuke Yachi	JPN	4:05:21
18	239	Diego Cafagna	ITA	4:06:03
19	236	Tim Berrett	CAN	4:06:47
20	244	Jesús Sánchez	MEX	4:07:14
21	219	Grzegorz Sudol	POL	4:07:48
22	231	Miloš Bátovský	SVK	4:08:22
23	256	Nenad Filipovic	SRB	4:12:11
24	249	Chris Erickson	AUS	4:13:00
25	255	Konstadínos Stefanópoulos	GRE	4:14:22
26	237	Augusto Cardoso	POR	4:14:38
27	246	Jorge Costa	POR	4:16:05
28	251	Igors Kazakevics	LAT	4:19:43
29	233	Andrei Stepanchuk	BLR	4:23:30
30	217	Rafal Fedaczynski	POL	4:24:51
31	140	Kevin Eastler	USA	4:31:52

3 自己記録更新者一覧 2007.7.30 ~ 9.17

8/12 大阪府国体最終選考会 (万博記念)

100m 藤本元太 (4年) 10"91(+1.3)

8/23 全日本医歯薬獣 (駒沢)

やり投 葉梨輝 (3年) 46m91

8/22 筑波大記録会 (筑波大)

走幅跳 浅沼達也 (2年) 5m97

8/23 NSSU オープン (日体大)

やり投 大谷真人 (3年) 41m03

9/8 一橋戦 (町田)

400m 今村岳 (4年) 51"06
400m 小澤聡 (4年) 51"24
400m 藤本元太 (4年) 51"09
800m 千徳恒憲 (3年) 2'06"86
110mH 酒谷彰一 (1年) 15"92(-0.9)
走幅跳 宮崎彩 (4年) 4m34
三段跳 西田昂広 (1年) 13m09
棒高跳 原湖楠 (1年) 2m60
砲丸投 寺島孝明 (2年) 9m02
砲丸投 楠木千尋 (2年) 7m71
砲丸投 三谷由紀 (4年) 7m76
やり投 千葉伸宏 (1年) 45m12

4 2006年度部内5傑 2007.9.17. 現在

男子 100m

1 藤本元太 (4年) 10"91(+1.3) 8.12
2 渡辺裕太 (2年) 11"01(+1.5) 4.22
3 今村岳 (4年) 11"22(+1.9) 5.4
4 都井紘 (2年) 11"25(-0.3) 5.26
5 福田篤 (3年) 11"28(+1.4) 5.4

男子 200m

1 今村岳 (4年) 22"52(+1.0) 5.26
2 渡辺裕太 (2年) 22"55(-0.2) 5.12
3 福田篤 (3年) 22"93(+0.3) 7.7
4 都井紘 (2年) 23"33(±0.0) 7.28
5 梶岡利之 (3年) 23"43(+0.9) 9.2

男子 400m

1 兵頭直弥 (1年) 49"50 7.29
2 深澤真楠 (3年) 50"66 5.3
3 今村岳 (4年) 51"06 9.8
4 梶岡利之 (3年) 51"09 4.29
4 藤本元太 (4年) 51"09 9.8

男子 800m

1 斉藤俊 (4年) 1'56"82 4.29
2 野村圭吾 (2年) 1'57"75 4.14
3 坂井啓一 (2年) 1'59"59 7.7
4 渡邊拓也 (1年) 2'01"49 9.8
5 小澤聡 (4年) 2'01"57 4.29

男子 1500m

1 石原宏尚 (4年) 3'58"70 4.29
2 松本翔 (4年) 3'59"79 7.29
3 斉藤俊 (4年) 4'03"12 7.29
4 月崎竜童 (4年) 4'03"95 4.14
5 野村圭吾 (2年) 4'06"67 4.29

男子 5000m

1 松本翔 (4年) 14'30"18 6.24
2 齋藤俊 (4年) 15'29"82 6.24
3 梶井駿介 (3年) 15'32"04 6.24
4 竹俣直道 (1年) 15'51"77 9.8
5 山田健太郎 (2年) 15'54"50 6.24

男子 10000m

1 松本翔 (4年) 29'54"51 5.19

男子 110mH

1 尾崎翔 (3年) 15"32(-2.3) 7.29
2 酒谷彰一 (1年) 15"92(-0.9) 9.8
3 武安光太郎 (1年) 16"20(-0.9) 9.8
4 持永新 (5年) 17"16(-0.6) 5.13
5 増本健太郎 (1年) 17"25(-1.0) 7.29

男子 400mH

1 伊勢田明弘 (5年) 56"75 5.4
2 酒谷彰一 (1年) 57"68 7.29
3 江間輝裕 (1年) 59"49 6.17
4 門脇啓太 (3年) 59"60 7.7
5 片島拓弥 (2年) 59"97 4.14

男子 3000mSC

1 石原宏尚 (4年) 9'22"89 7.29
2 月崎竜童 (4年) 9'47"90 7.29
3 山本祥 (4年) 10'33"53 6.16
4 松永将幸 (3年) 10'41"34 7.7

男子 10000mW

1	和田 光一郎 (3年)	48'28"97	5.18
2	菅野 雄大 (4年)	48'54"44	4.15
3	北沢 太郎 (3年)	50'53"82	5.18

男子 走幅跳

1	尾崎 翔 (3年)	7m34	4.14
2	武安 光太郎 (3年)	7m18	5.4
3	廣瀬 彬 (2年)	6m71	5.4
4	西田 昂広 (1年)	6m47	7.7
5	倉員 智瑛 (4年)	6m38	7.7

男子 三段跳

1	武安 光太郎 (3年)	14m56	5.18
2	倉員 智瑛 (4年)	14m40	4.14
3	廣瀬 彬 (2年)	14m02	5.4
4	西田 昂広 (1年)	13m09	9.8
5	大谷 真人 (3年)	12m95	5.26

男子 走高跳

1	小福田 大輔 (3年)	1m80	7.7
2	倉員 智瑛 (4年)	1m75	7.29
2	持永 新 (5年)	1m75	4.14
4	地子 智浩 (2年)	1m60	5.26
5	荒井 博貴 (2年)	1m50	7.7

男子 棒高跳

1	大谷 真人 (3年)	4m20	5.19
2	持永 新 (5年)	3m60	5.13
3	木村 剛 (4年)	3m40	4.14
4	関原 孝之 (4年)	3m00	5.26
5	原 湖楠 (1年)	2m60	9.8

男子 砲丸投

1	北川 昂広 (3年)	11m07	5.26
2	小林 宗隆 (4年)	10m84	7.29
3	持永 新 (5年)	10m32	5.26
4	寺島 孝明 (2年)	9m02	9.8

男子 円盤投

1	小林 宗隆 (4年)	31m22	4.14
2	庄司 宇 (4年)	31m13	4.14
3	持永 新 (5年)	30m25	7.7
4	谷 彰一郎 (2年)	28m94	7.29

男子 ハンマー投

1	庄司 宇 (4年)	38m15	5.4
2	寺島 孝明 (2年)	35m49	7.29
3	葉梨 輝 (3年)	14m51	7.29

男子 やり投

1	谷 彰一郎 (2年)	62m08	7.29
2	北川 昂広 (3年)	51m34	7.29
3	関原 孝之 (4年)	50m17	5.3
4	葉梨 輝 (3年)	46m91	8.23
5	千葉 伸宏 (1年)	45m12	9.8

男子 十種競技

1	持永 新 (4年)	5682点	5.12-13
---	-----------	-------	---------

女子 100m

1	清水 蘭 (2年)	13"25(+2.0)	7.29
2	大久保 渥子 (2年)	13"78(+0.5)	7.7

女子 200m

1	清水 蘭 (2年)	28"21(+1.3)	6.17
---	-----------	-------------	------

女子 400m

1	日下 桃子 (2年)	61"92	5.26
2	清水 蘭 (2年)	64"45	9.8
3	大久保 渥子 (2年)	68"99	9.8

女子 800m

1	日下 桃子 (2年)	2'19"87	4.29
---	------------	---------	------

女子 1500m

1	宮崎 彩 (4年)	7'24"88	9.8
---	-----------	---------	-----

女子 3000m

1	日下 桃子 (2年)	11'16"74	7.29
---	------------	----------	------

女子 棒高跳

1	宮崎 彩 (4年)	1m70	4.14
---	-----------	------	------

女子 走幅跳

1	高山 花子 (1年)	4m89	5.26
2	宮崎 彩 (4年)	4m34	9.8

女子 砲丸投

1	三谷 由紀 (4年)	7m76	9.8
2	楠木 千尋 (2年)	7m71	9.8
3	宮崎 彩 (4年)	5m89	7.29

女子 やり投

1	楠木 千尋 (2年)	21m76	7.7
2	大久保 渥子 (2年)	15m70	5.26

5 主務より

5.1 応援OB・OG紹介

9月8日土曜日、町田市陸上競技場にて行われました一橋戦(女子は三大戦)に際し、応援に駆けつけ

て下さったOB、OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1968年卒 小林寛道
1979年卒 中谷敬二
1983年卒 八田秀雄
1994年卒 工藤麻衣子
2003年卒 山崎智裕
2004年卒 相原佑康
2004年卒 熊丸拓郎
2005年卒 藤田靖浩
2006年卒 村田拓哉
2006年卒 吉田和敬
2007年卒 新井邦生
2007年卒 黒澤徹也
2007年卒 鈴木崇人

ご多忙の中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

5.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 京大戦(当校主幹、80回記念行事を予定)
10/7(日) 駒場
- 箱根駅伝予選会
10/20(土) 立川
- 第5回東大競技会
10月下旬 駒場
- OBゴルフコンペ
11/11(日) 季美の森(予定)

お詫び:京大戦日程に関しまして、誤って一部「10月7日(土)」とお伝えいたしましたが、正しくは「10月7日(日)」となります。謹んで訂正いたします。ご迷惑をおかけいたしましたこと、お詫び申し上げます。

5.3 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

学生主務:山本卓典

以上です。今後ともご指導ご支援のほどよろしく
お願い申し上げます。

主務 山本 卓典

文責:今村 岳